（令和元年６月２７日）　**金属課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成30年11月末	平成31年２月末	令和元年５月末見通し	令和元年８月末見通し
－２５千トン ［　２２６８千トン　］ （９８．９%）	＋６２千トン ［　２３３０千トン　］ （１０２．７%）	＋７０千トン ［　２４００千トン　］ （１０３．０%）	―２５千トン ［　２３７５千トン　］ （９９．０%）
２２７０千ﾄﾝ(100.1)	２２７０千ﾄﾝ(97.4)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成30年12末	平成31年３月末	令和元年６月末見通し	令和元年９月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 90,300 円で前年比＋8,100 円、前期比では+1,600 円。１０月はどの品種も秋需のピークで９月販売減の反動もあり、予想以上の販売増に繋がった。１１月も引続き堅調に推移しており、前月比稼働日減の販売減に留まった。１２月は冬場に入り、秋需の勢いは落ち着き、稼働日数減、ハイテンションボルト不足による工期遅れで販売量は著減した。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 90,300 円で前年比±0 円、前期比±0 円。メーカーの相次ぐ設備トラブルで出荷遅れが生じ、需給のタイト化を懸念していた。しかし、建築需要は堅調なもののハイテンションボルトやコラム特に大径角の入手難により中小物件の工期遅れが生じ、予想以上に荷動きが落ちた。全体的に需給はタイトどころか逆に緩んだ。	メーカーからの入荷が好調なため、在庫は月を追う毎に増加しており、在庫過多と言ってもよい状況である。現状、荷動きは低調であることに加え、某電炉メーカーの値下げ発表が更に追い討ちをかけ市況は弱含みとなり収益は悪化傾向である。現状、流通はメーカー動向に注視しながら、なんとか市況維持に努めている状況である。	市中在庫の過多は今後も少しの間、続くが、メーカーが生産調整に入るため徐々にではあるが在庫調整されていくだろう。市況は弱含みだが、なんとか耐えて維持していくしかない。今後、流通の採算悪化が懸念される。需要はあっても荷動きが悪い。今後、ハイテンションボルト不足が改善されれば、中小物件が動き出すだろう。秋口に需要が盛上ることを期待したい。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流通調査５月結果によれば、５月在庫量は 261,768 トン前月比+0.1%、前年同月比+3.3%、在庫は前月比微増、前年同月比増加しました。在庫率は 147.3 ポイントと更に上昇しました。日割りの販売は前月並ですが、稼働日減分が減少したものと思われます。在庫率をみても在庫過多の状況と言ってよいかと思われます。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）受注残の消化が進む一方で、市況は膠着状態に陥っており、新規成約は乏しく、パッとしない状況が続いているが、ここにきてぼちぼち土木の案件もそれなりに出てきている感じ。ハイテンションボルト不足は改善されつつあるが依然不足気味により 建築関係の動きがさっぱりで､小口買いが中心で荷動きに迫力がない。６月末に開催される G 20 による交通渋滞が予測され、販売量にも かなり 影響が出るものと思われる。来期の見通しは、ハイテンションボルト不足から止まっていた鉄骨案件もボチボチではあるが動き出す気配も出てきており、また土木工事 や物流倉庫の建方が 本格的に動き出しそうな気配もあり、先行きに期待したい。

（愛知）自動車生産は変わらず好調だが、自動車設備が出ていない。工作機械の不調、梱包材、パレットの小型案件の不調もあり、一般形鋼および角パイプの落込みが激しい。鋼板関係は悪いと言いながら前年比横這いと販売量はある。しかし、入荷があまりにも良好なため在庫が溜まってしまい、暇な感覚を持っている特約店が多い。鉄骨は年末年始のコラム不足の影響で、５月まで中小案件が受注できなかた。現状、ボルト不足が原因となっているが、ボルトの問屋在庫は少しずつ増えてきており、H、Mグレードは、ある程度の仕事確保が可能となっている。しかし、相変わらずの工期遅れで動き出すのは７月以降だろう。Rグレードファブはボルト不足の影響から仕事が少ない。